

理解度&釣れる度100%

丸 マルキュー

優良 餌本



パワーエサ グツク



エサに
榴んだら
羨んでね!



Contents

- 02 新エサ「GD」の特徴と基本ブレンド
- 06 両ダンゴの浅ダナ釣り
- 14 両ダンゴのチョーチン釣り
- 18 両ダンゴの底釣り
- 22 ヒゲトロセットの浅ダナ釣り
- 26 ヒゲトロセットのチョーチン釣り
- 30 ウドンセットのチョーチン釣り

夏秋号 2019

HERA BAIT POWER BOOK

近年の両ダングの釣りは、上から追わせるように(落下中からバラけながら)タナで食い頃になるようにして釣っていく釣り方が主流です。

しかし、タナで食い頃を意識しすぎると、エサ付けがあまくなったりして、エサが持たないということが起きやすくなります。かといってただしつかりとエサが持つていけば釣れるほど、いまのへら鮎釣りはやさしくありません。

簡単なように思えて、じつは難易度の高い両ダングの釣りを手助けしてくれるのが新発売の「GD」です。

この「GD」は、多めにグルテンが配合されているので、落下中のバラケ性が抑えられており、エサを持たせることが

非常に容易になっています。そしてねらいのタナで膨らむことでへら鮎が食いやすくなります。また、軽いエサなので落下中のバラケ性は少ないですが、アピール力も備えています。この特性は単品で作るとよく分かるでしょう。

近年、ゆつくり落下する軽いエサは非常に有効ですが、軽いエサの弱点としてエサを持たせるのが難しい点があります。これをグルテンを配合することで完全にクリアしたのです。

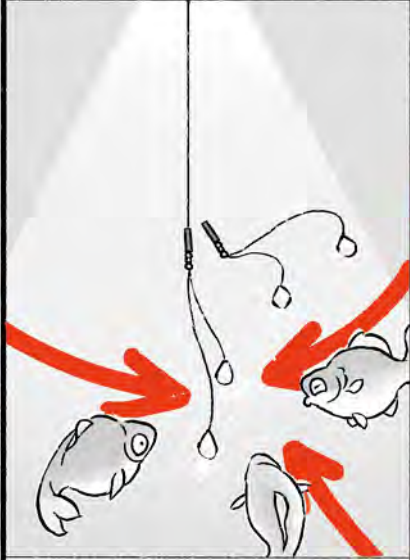
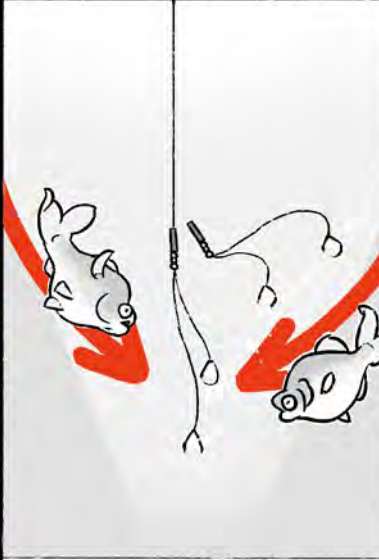
この「GD」の特徴を上手に活かすには、タナでの膨らみと、ハリのフトコロに残るエサの芯をプラスする必要があります。そこで、ブレンドするのが「カルネバ」、「バラケマツハ」、「凄魅」に

グルテンが麩を包み、落下途中のバラケを抑えてタナまでエサを持たせます。そして狙いのタナで膨らみ、芯が軟らかくなるのでカラツンが減少します。お使いのエサにブレンドすることで、軽くてしつかりタナまで持つエサに仕上がります。



重さ ■■■■□□
バラケ性 ■□□□□□

膨らんで誘い食わせる「GD」

「GD」をブレンドすると……	既存品のブレンド
	
<p>「GD」をブレンドすると着水からのバラケが抑えられるので、上層での開きが少なく、タナで膨らむことで、タナ近辺に厚く集魚できる。また軽いので上層からのアピールもある。</p>	<p>既存のブレンドは着水直後からバラケだし、糸を引くようにタナへ落下していく。この落下中からへら鮒を呼び込んでタナへ導いて食わせる。</p>

なります。
ブレンドの考え方として、「カルネバ」はエサの芯を作る役目ですが、

「GD」の軽さを活かすために同じ軽いタイプである「カルネバ」を使用します。このエサの芯が

「GD」の軽さを活かすことができることで、食いアタリにつながります。「バラケマツハ」と「凄魅」はエサをタナで膨ら

ませる（バラけさせる）役目を果たします。どちらも役割は同じですが、「バラケマツハ」は膨らんで細かくバラける、「凄魅」は「バラケマツハ」よりも大きく膨らむので、よりアピールを高めることができます。

ですから「バラケマツハ」のブレンドから打ち始め、ウキの動きが悪いときに「凄魅」をブレンドしたパターンに切り替える。これがおすすブレンドの基本的な使い方です（次頁参照）。

「GD」は、しっかり持つという特徴がはっきりしています。エサが持たないという場面に遭遇したら、迷いなくこのエサを使ってみてください。非常に容易にエサを持たすことができることを実感できるでしょう。

●膨らみをプラスしてアピール強調

「GD」 200 cc+

「カルネバ」 200 cc+

水 200 cc+

「バラケマツハ」 200 cc+

「凄麩」 150 cc



+



+



+



+



「GD」の基本ブレンド

浅ダナでもチョーチンでも使える！

●盛期にエサ負けしない持つブレンド

「GD」 200 cc+

「カルネバ」 200 cc+

水 200 cc+

「バラケマツハ」 400 cc



+



+



●エサの大きさ

実寸大



+



●作り方

「浅ダナー本」200 cc、「ガッテン」200 cc、「凄麩」400 ccをエサボウルに入れて粉の状態ですべてを軽くかき混ぜる。ここに水200 ccを入れ、手を熊手状にしてよくかき混ぜてから「バラケマッハ」100 ccを加え、全体が均一になるように混ぜる。

●使い方

基エサを3分の1程度に小分けして、軽く押し練りしてから使い始める。エサ持ちが悪いときは、さらに押し練りを加えるか、しっかり圧を掛けてエサ付けする。それでも持たない場合は手水を打って全体をかき混ぜるようにして粘りをだす。

●ブレンドのアレンジ!!

へら鮎の活性があるときは、よりエサを持たせられるブレンドに変更する。バラケ性のある「バラケマッハ」100 ccを粘りのある「BB フラッシュ」100 ccに替えてみよう。

「浅ダナー本」200 cc+「ガッテン」200 cc+
「凄麩」400 cc+水200 cc+
「BB フラッシュ」100 cc



+



+



+



+



両ダンゴの浅ダナ釣り①

軽めに仕上げる近年のトレンド

●バラケブレンド

「浅ダンナー本」200 cc+

「ガッテン」200 cc+

「凄麩」400 cc+

水200 cc+

「バラケマツハ」100 cc



+



+



●エサの大きさ

実寸大



+



+



両ダンゴの浅ダナ釣りは盛期の代表的な釣り方ですが、エサをしつかり持たせてウキを深ナジミさせて待つていれば釣れるほど、いまのへら鮒釣りはやさしくありません。エサの落下中からアピールしてサワリを出し、ナジミ切る寸前でアタらせる。または、ナジんだところでサワリがあつてすぐアタる。このような動きが理想です。

そのためには、落下中からアピールするエサが必要になつてきます。そこで注目されるのが軽さです。エサが軽いことでゆっくり落下しますので、これにへらブナが反応するといふわけです。これにくわえてハリスワークを駆使して理想的な動きで釣っていくことが求められます。

軽さ



エサ持ち (芯)



膨らみ



紹介しているブランドでいえば、「浅ダナ一本」



バラケ性

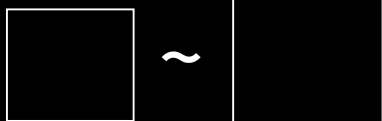


エサ持ち

が軽さを目的としています。これにエサ持ちを

●オモリ 実寸大

0.25mm厚板オモリ 15mm × 17mm ~ 17mm × 20mm

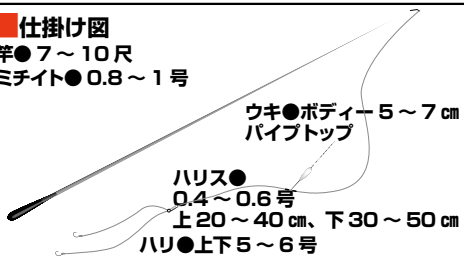


■仕掛け図

竿●7~10尺
ミチイト●0.8~1号

ウキ●ボディー5~7cm
パイブトップ

ハリス●
0.4~0.6号
上20~40cm、下30~50cm
ハリ●上下5~6号



両ダンゴの浅ダナ釣り①

釣り方のコツ

よくするため、エサの芯ができる「ガッテン」、膨らみを演出する「凄魅」、バラケ性のある「バラケマツハ」という組み合わせになります。

両ダンゴの釣りは、エサがしつかり持つことが大前提ですが、ただ持てばいいわけではなく、先に触れた軽さにエサが開く(膨らむ)要素も必要です。いくら軽くてもまったくバラけないようではへら鮎は寄ってきません。両ダンゴの釣りでもよくいわれる、ひとつのエサで寄せて食わせるといのが、このことなのです。

エサ使用のコツとしては、エサが持つてナジミ幅ができるようにすること。そのためには、押し練りや手水での練りが必要になります。落下中の

アピールは必要になりますが、それでエサが持たないようでは話になりません。強いサワリがあってもエサが持つ。ここがポイントなのです。ですから、エサが持たない場合は、バラケ性のある「バラケマツハ」を粘りのある「BBフラッシュ」に替えるアレンジが必要になるのです。

盛期の釣りですから、セッティングは全体的に強め。ウキやハリは大きめ、ハリスは太めになります。へら鮎の寄りに負けないでしつかり立つウキサイズ、エサが持たせられるハリサイズが必要で、これをクリアすれば、あとはエサ次第。強く反応がでて、それでいてしつかり持つてアタリがでる。まずはそこを目指すようにしましょう。



●作り方

「ペレ軽」400 cc、「浅ダナー本」200 cc、「BB フラッシュ」200 ccをエサボウルに入れて粉の状態で全体を軽くかき混ぜる。ここに水200 ccを入れ、手を熊手状にしてよくかき混ぜてから「粒戦細粒」50 ccを振りかけ、全体が均一になるように混ぜる。

●使い方

基エサを3分の1程度に小分けして、軽く押し練りしてから使い始める。エサ持ちが悪いときは、さらに押し練りを加えるか、しっかり圧を掛けてエサ付けする。

●ブレンドのアレンジ!!

活性高いときは、「ペレ軽」を500 ccにして「浅ダナー本」を100 ccにする。逆に活性が低いなら「ペレ軽」を200 ccにして「浅ダナー本」を400 ccにする。

高活性時

「ペレ軽」500 cc+「浅ダナー本」100 cc+
「BB フラッシュ」200 cc+水200 cc+
「粒戦細粒」50 cc

低活性時

「ペレ軽」200 cc+「浅ダナー本」400 cc+
「BB フラッシュ」200 cc+水200 cc+
「粒戦細粒」50 cc

両ダンゴの浅ダナ釣り②

軽さを利用した現代版ペレット系

●バラケブレンド

「ペレ軽」400 cc+

「浅ダナー一本」200 cc+

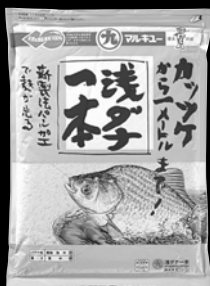
「BB フラッシュ」200 cc+

水200 cc+

「粒戦細粒」50 cc



+



+



●エサの大きさ

実寸大



+



+



ペレット系の両ダンゴの釣りは、いわゆるペレ宙といわれる釣り方で、以前は18尺などの長竿を使い、ペレットが多い重めのエサで1.5mくらいのタナをねらい大型を揃えるというものでした。

しかし、近年はこのような釣り方で爆釣することが少なくなりました。ただ、まだまだペレットエサの効果は充分あり、釣り場にもよりますが、ペレット系両ダンゴの出番は充分にあります。

最近の傾向としては、軽めのペレットが有効であり、その代表例が「ペレ軽」です。このエサをベースに、膨らみや粘りをくわえるためさなぎ粉が少ない白い麩とブレンドするのが一般的です。また、軽さを活かすため

にも軽めの素材とブレンドするのがいいでしょう。

オススメブレンドの「浅ダナ一本」は膨らみ

軽いペレット



軽さ／膨らみ



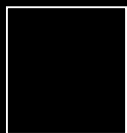
エサ持ち



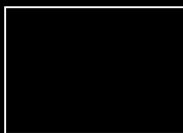
ペレット強調

●オモリ 実寸大

0.25mm厚板オモリ 17mm × 16mm ~ 17mm × 24mm



~



■仕掛け図

竿● 10 ~ 18尺

ミチイト● 1号

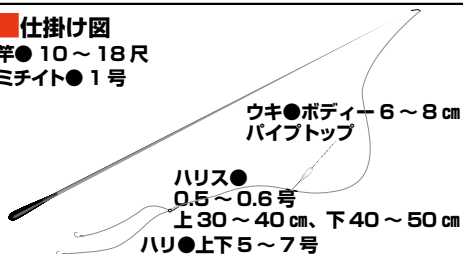
ウキ● ボディー 6 ~ 8 cm
パイプトップ

ハリス●

0.5 ~ 0.6号

上 30 ~ 40 cm、下 40 ~ 50 cm

ハリ● 上下 5 ~ 7号



両ダンゴの浅ダナ釣り②

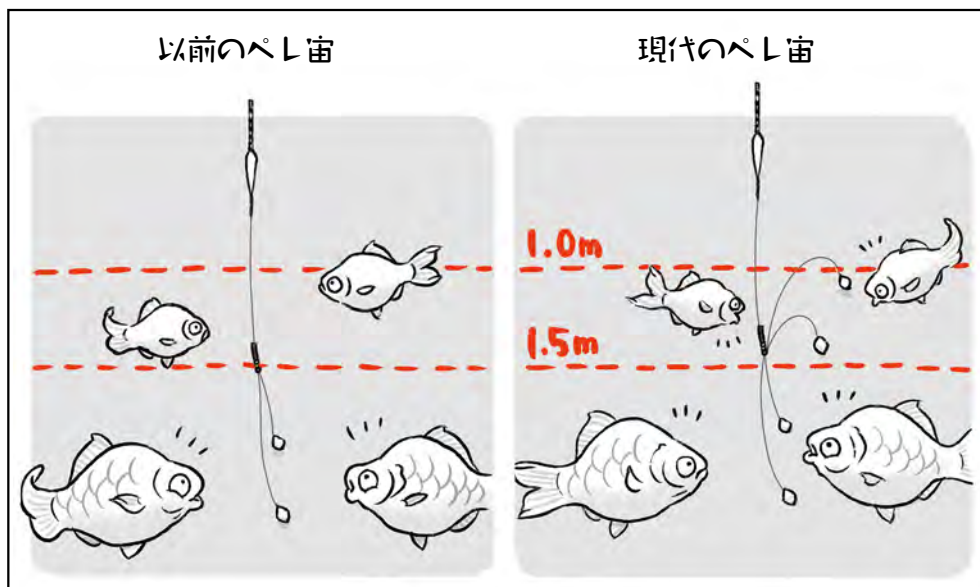
釣り方のコツ

によるバラケ性があり、また軽いエサです。「Bフラッシュ」は粘り度とまとめるタナまで持たせる役割。そして「粒戦細粒」はペレットを強調するとともにざらっとした手触りで使いやすいたッチにしあげることができます。

エサ使いのポイントとしては、ウキがしっかりナジむように押し練りとエサの大きさを調整します。これでも持たない場合はエサを手水で練っていきませんが、ペレット系のエサは極単に粘ってしまふと、反応が悪くなる場合がありますので要注意です。

ブレンドのアレンジとしては、「ペレ軽」と「浅ダナ一本」の比率を変えて対応します。活性があるときは「ペレ軽」を増やし、活性が低いときは「浅ダナ一本」を増やします。使用するエサは同じでも分量を変えることで対処できるのでエサに迷うことがなくなります。こういうエサ使いを身につけると釣りが楽になるはずですよ。

タックルは盛期の釣りですから強めになりますが、以前ペレ宙ほど太仕掛けにする必要はありません。通常の両ダンゴの釣りより少し強め程度でよいでしょう。また、ハリスの長さも状況に寄りますが、以前のように長めにして小型をかわし、大型ばかりを揃えるという釣りは成立しにくいので、あまり長くせず、強いアタリでヒットする長さに合わせ、小型も大型も混ざって釣れるで構わないでしょう。



●作り方

「凄魅」400 cc、「パウダーベイトヘラ」200 cc、「ガッテン」200 ccをエサボウルに入れて粉の状態ですべてを軽くかき混ぜる。ここに水200 ccを入れ、手を熊手状にしてよくかき混ぜてから「バラケマッハ」100 ccを加え、全体が均一になるように混ぜる。

●使い方

基エサを半分程度に小分けして、数回押し練りしてから使い始める。エサ持が悪いときは、さらに押し練りを加えるか、しっかり圧を掛けてエサ付けする。それでも持たない場合は手水を打って全体をかき混ぜるようにして粘りをだす。

●ブレンドのアレンジ!!

活性がありエサを持たせたいときは「バラケマッハ」100 ccを「BBフラッシュ」100 ccに替える。逆にサワリなど動きが少ない時は「パウダーベイトヘラ」を抜き、「バラケマッハ」を300 ccにする。

高活性時

「凄魅」400 cc+「パウダーベイトヘラ」200 cc+
「ガッテン」200 cc+水200 cc+
「BBフラッシュ」100 cc

低活性時

「凄魅」400 cc+「ガッテン」200 cc+
水200 cc+「バラケマッハ」300 cc

両ダンゴのチョーチン釣り

深いタナまでしっかり持つ

●バラケブレンド

「**凄麩**」400 cc+

「**パウダーベイトヘラ**」200 cc+

「**ガッテン**」200 cc+

水200 cc+

「**バラケマツハ**」100 cc



+



+



●エサの大きさ

実寸大



+



+



狙いのタナまでエサを
 確實ナジませて釣つてい
 くのがチョーチン釣りの
 基本です。よくあるのが、
 ナジんでサワリがでてい
 るのにアタらないという
 パターン。これにはいく
 つか原因があります。

ひとつはエサがバラけ
 すぎて肝心のエサの芯へ
 飛びつかないことです。
 この場合は、エサを押し
 練りしてエサのバラケ性
 を抑えます。

もうひとつ考えられる
 のが、エサが大きすぎて
 へら鰯がエサを食いづら
 い状況になってること。
 このときは、エサを小さ
 く付けます。大きなエサ
 ではパクツと食えないの
 を小さいエサにして食わ
 せるのです。

ただ、このときに注意
 することがあります。そ
 れはエサを小さくしても

膨らみ



重さ



エサ持ち (芯)



バラケ性



ナジミ幅を同じように
 しっかりと出すこと。エサ
 を小さくしてナジミ幅が
 少なくなるようでは、エ
 サが持つてない証拠。こ
 うなると今度はサワリ
 すらでなくなってしまう
 ます。失敗すると、その
 1投で釣りが壊れること
 もあるので注意しましよ
 う。

仕掛け図
 竿●8~21尺
 ミチイト●1号

ウキ●ボディー 10~16 cm
 パイブトップ

ハリス●0.5号
 上 40~55 cm、下 50~70 cm

ハリ●上下 6~7号

●オモリ 実寸大

「絡み止めス
 イッチシン
 カー」0・8g

短竿

0.25mm厚板オモリ
 17mm×27mm

+

「絡み止めス
 イッチシン
 カー」
 2・0g

長竿

0.25mm厚板オモリ
 17mm×33mm

両ダンゴのチョーチン釣り

釣り方のコツ

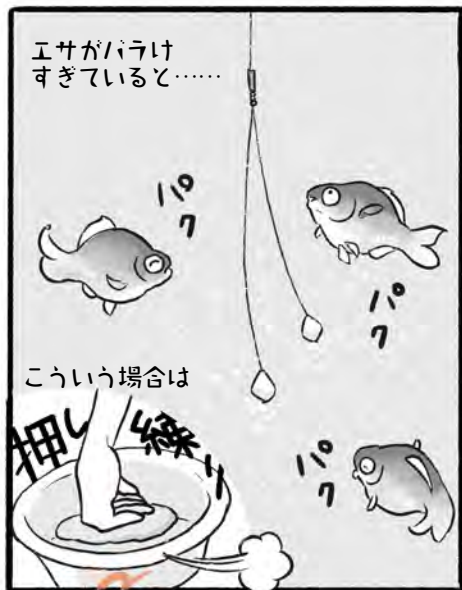
は1000ccほどの量を作る人が多いので、経時変化を考慮し作った半分は基エサとしてとっておくこと。練ったエサは元には戻らないので、基エサを取っておくと元にもどれます。また使っているエサに基エサを足すことでエサが復活します。よく、手づかみで粉のエサを追いつく人もいますが、そのような対応はその場しんぎになるので、長続きしません。

紹介しているブレンドは、ベースとなる「凄麩」が膨らみ、「パウダーベイトヘラ」が重さ、「ガツテン」が芯持ちで構成されていますので、深いタナまでしっかりと持つブレンドになっています。竿の長さが短い場合など、エサが持ちすぎると、ナジミが早すぎるときは、重

さのある「パウダーベイトヘラ」を軽い「カルネバ」に置き換えるといいでしょう。

エサブレンドを考えるときは、重い・軽い・粘る・バラけるの4つの要素を軸に、いま使っているエサに何が足りないのかを考えて組み合わせます。

たとえば、エサを持たせるのは粘りか重さです。エサが持たないときは粘りか重さを足します。エサが持ちすぎるとバラケさせる、反応がないなら軽くすることです。これに代わって、エサの大小とタッチの硬軟という要素を組み合わせれば、きつと正解のエサが見つかるでしょう。これが、ダンゴのエサ合わせであり、この釣りの醍醐味なのです。



●作り方

「ペレ底」100 cc、「ダンゴの底釣り冬」100 cc、「グルバラ」100 ccをエサボウルに入れて粉の状態で全体を軽くかき混ぜる。ここに水150 ccを入れ、手を熊手状にしてエサ全体に水が行きわたるまでかき混ぜそのまま放置。「ペレ底」の吸水にはやや時間がかかるので、10分ほど放置します。

●使い方

基エサを半分に小分けにして、指の爪側でエサを押しエアーを抜く「押し練り」を数回行います。「強い」アタリで空振るときは「エサの持ちすぎ」が考えられるので、手水を打って押し練りをします。逆にモヤモヤしたサワリだけでアタリがでないときは、「エサが抜けている」ことがあります。そのときは「エサを硬くする」か「エサにネバリをつける」ようにします。「硬くする場合」は基エサを合体させ、「ネバリをつける場合」は数回の押し練りを加えます。

●ブレンドのアレンジ!!

ウキの動きが悪いときは、バラケ性をアップしたブレンドに変更する。「ペレ底」を150 ccに増やし、「グルバラ」100 ccをバラケ性のある「バラケマッハ」50 ccに替えてみよう。

「ペレ底」150 cc+
「ダンゴの底釣り冬」100 cc+
「バラケマッハ」50 cc+水150 cc



+



+



+



両ダンゴの底釣り①

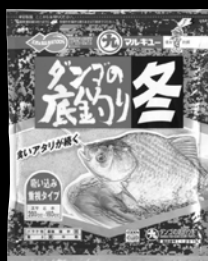
高活性時に強いペレット系

●バラケブレンド

「ペレ底」100 cc＋
「ダンゴの底釣り冬」100 cc＋
「グルバラ」100 cc＋
水 150 cc



+



+



●特徴

へら鮒の活性が高いと、水中の動きも激しくなります。そのような状況での底釣りは、「エサを持たせるための「重さ」と「粘り」が重要になります。そのため、ブレンドの柱を「ペレ底」として、エサを持たすために「ダンゴの底釣り冬」と「グルバラ」をブレンドします。

●エサの大きさ

実寸大



+



●作り方

「とろスイミー」100 cc、「ダンゴの底釣り冬」100 cc、「バラケマッハ」50 ccををエサボウルに入れて粉の状態ですべてを軽くかき混ぜる。ここに水150 ccを入れ、手を熊手状にしてエサ全体に水が行きわたるまでかき混ぜそのまま放置する。

●使い方

基エサを半分に小分けにして、エサを押してエアーを抜く「押し練り」を数回してから使い始めます。あとは、前頁のペレット系と同じです。

●ブレンドのアレンジ!!

ウキの動きが悪いときは、バラケ性をアップしたブレンドに変更する。「とろスイミー」を50 ccに減らし、バラケ性のある「バラケマッハ」を100 ccに増やしてみよう。

「とろスイミー」50 cc+
「ダンゴの底釣り冬」100 cc+
「バラケマッハ」100 cc+水150 cc

■仕掛け図

竿●水深に合わせる

ミチイト●0.8～1号フロロ



ハリ●上下4～6号 0.4～0.5号

上40～50 cm、下48～60 cm

●オモリ 実寸大

●水深4m前後

「絡み止めスイッチシンカー」

1.2g + 0.25 mm厚板オモリ8 mm

× 30 mm

+



両ダンゴの底釣り②

着底してから膨らむスイミー系

●バラケブレンド

「とろスイミー」100 cc＋
「ダンゴの底釣り冬」100 cc＋
「バラケマツハ」50 cc＋
水 150 cc



+



+



●特徴

スイミー系のエサが効く釣り場では「とろスイミー」を使うブレンドがオススメ。特徴は落下中の膨らみが弱く、着底してから徐々に開き（バラケ）始めるようになります。そのため、ウワズリを抑えることができ、安定した底釣りが可能になります。また、エサ持ちが良いので21尺以上の底釣りなどにも威力を発揮します。

●エサの大きさ

実寸大



+



●作り方

「パウダーベイトヘラ」400 cc、「ガッテン」400 ccをエサボウルに入れて粉の状態ですべてを軽く15回程度かき混ぜる。ここに水200 ccを入れ、手を熊手状にして15回程度かき混ぜてから「スーパーダンゴ」100 ccを加え、全体が均一になるよう混ぜる。エアーを含んだボソに仕上げる。

●使い方

基エサを3分の1程度に小分けして、数回手水を打って使用する。エサ持ちが悪いときはしっかり圧を掛けてエサ付けする。それでも持たない場合は押し練りをして使う。

●ブレンドのアレンジ!!

サワリはあるが食いアタリがでないときは、バラケエサのバラケすぎが考えられます。もう少しバラケ性を抑えるため「スーパーダンゴ」100 ccを「バラケマッハ」100 ccに置き換えたブレンドに変更しましょう!

「パウダーベイトヘラ」400 cc+
「ガッテン」400 cc+水200 cc+
「バラケマッハ」100 cc



+



+



+



ヒゲトロセットの浅ダナ釣り 持たせやすいブレンドで使いやすさ抜群

●バラケブレンド

「パウダーベイトヘラ」400 cc +
「ガッテン」400 cc +
水200 cc +
「スーパーダンゴ」100 cc



+



+



+

●エサの大きさ

実寸大



バラケ性を抑える場合は
「スーパーダンゴ」を「バラ
ケマツハ」に置き換える。

ヒゲトロセットの浅ダナ釣りは、初夏～秋の活性がある時期に混雑などにより両ダンゴでコンスタントにアタリを出し切れないうちに有効な釣り方です。

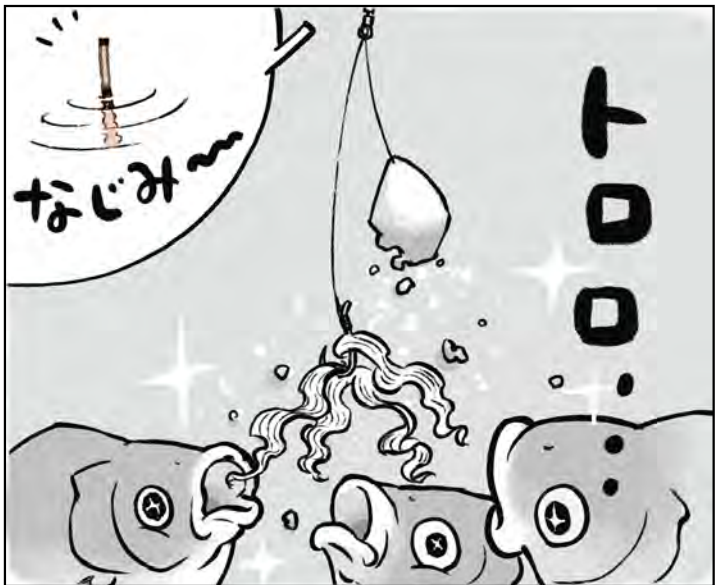
前提として必ずバラケエサを持たせてウキをトップ先端付近までなじませ、バラケエサが付いている時のアタリを狙っていきます。イメージとしては、バラケエサ付近にいる魚に軽いトロロエサを吸い込ませる感じですね。ですから、基本的にはハリスは短く、段差も

少なくするのがいいです。魚が寄ってきてエサ持ちが悪いときは、しっかりと丁寧にエサ付けをする、もしくはバラケエサを押し練りをして対処します。また、ハリのサイズアップをして対応する

ことも有効です。強いアタリが出ているがヒットしない、いわゆるカラツンが多い場合には、バラケエサの持ちすぎが考えられるので、エサを加えて少し開かせるか、エサ付けをひと回り小さくしてください。それでも上手くいかない場合は、下ハリスを短く詰めて対応します。

くわせエサのトロロエサは繊維が弱いとエサ持ちが悪くなるので古いものでなく、できるだけ新しいものを使いましょう。また、高温多湿の所におくと繊維が弱くなりやすいので、日の当たらないよう保存します。

またハリ付けは、少量ずつ2～3回に分けて引っかけ、最後に指先で扱くとエサ持ちがよくなります。



●オモリ 実寸大

0.25 mm厚板オモリ
15 mm × 17 mm～
17 mm × 25 mm



ヒゲトロセットの浅ダナ釣り

釣り方のコツ

●くわせエサ

「極上とろろハード」



●使い方

1分封の3分の1程度を取りだし、ほぐすようにしてから軽く吸水させる。ハリに2～3回引っかけるようにして、2～3cmぐらいの長さに扱いて使用する。



1分封の3分の1程度をちぎる



取りだしたトロロをほぐす



軽く吸水させる



2～3回に分けてハリに掛ける



上から下へ指先で扱いて量と長さを調整する

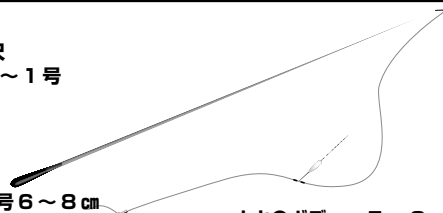


2～3cmぐらいの長さが標準

■仕掛け図

竿●7～11尺
ミチイト●0.8～1号

ハリス●
上0.5～0.6号 6～8cm
下0.4～0.5号 10～15cm
ハリ●上6～7号、下4～5号



ウキ●ボディ5～8cm
パイフットップ

●作り方

「パウダーベイトヘラ」400 cc、「凄魃」200 cc、「ダンゴの底釣り夏」100 ccをエサボウルに入れて粉の状態ですべてを軽く15回程度かき混ぜる。ここに水200 ccを入れ、手を熊手状にして15回程度かき混ぜてから「バラケマッハ」100 ccを加え、全体が均一になるよう混ぜる。エアーを含んだボソに仕上げる。

●使い方

基エサを3分の1程度に小分けして、数回手水を打って使用する。エサ持ちが悪いときはしっかり圧を掛けてエサ付けする。それでも持たない場合は押し練りをして使うか、基エサを足してタッチを硬くする。

●ブレンドのアレンジ!!

ウキの動きが弱い、魚の寄りが悪いときは、もう少しエサをバラけさせます。その場合は、「バラケマッハ」100 ccを「スーパーダンゴ」100 ccに置き換えたブレンドに変更しましょう!

「パウダーベイトヘラ」400 cc + 「凄魃」200 cc + 「ダンゴの底釣り夏」100 cc + 水200 cc + 「スーパーダンゴ」100 cc



+



+



+



+



ヒゲトロセットのチョーチン釣り

エサ持ち・開き・重さのベストバランス

●バラケブレンド

「パウダーベイトヘラ」400 cc+

「凄麩」200 cc+

「ダンゴの底釣り夏」100 cc+

水200 cc+

「バラケマッハ」100 cc



+



+



+



+



もう少しバラケさせたいときは「バラケマッハ」を「スーパーダンゴ」に置き換える。

●エサの大きさ

実寸大



浅ダナ釣りと同じようにチョーチン釣りもバラケエサを持たせて、バラケエサが付いているときのアタリをねらっています。管理釣り場、野釣り場ともに有効で両ダンゴでアタリを出し切れないうちに効果的な釣り方です。

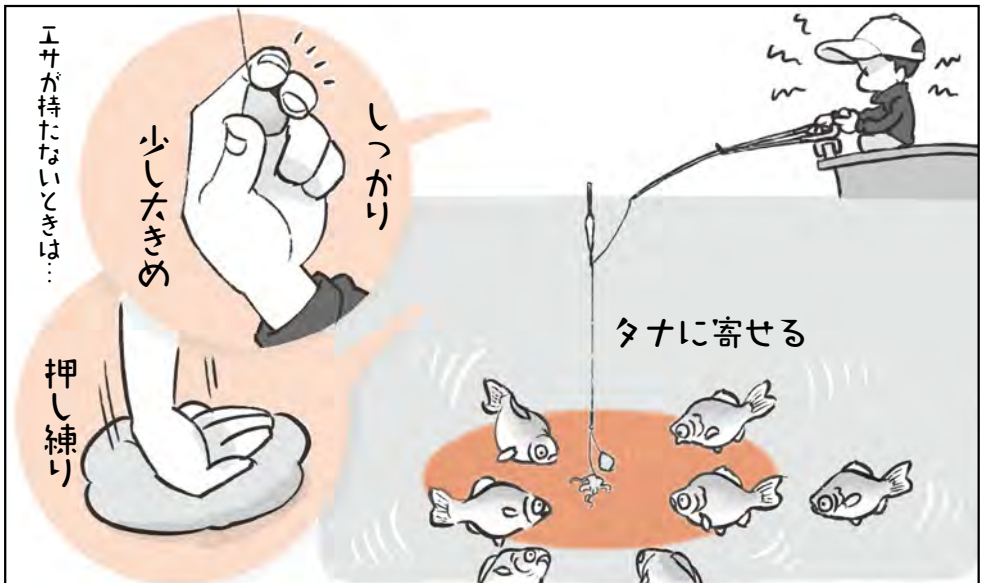
浅ダナにくらべて深いタナを攻めるわけですから、エサ付けのサイズは大きくなり、よりタナに魚を寄せる意識を持つとよいでしょう。

魚が寄ってきてエサ持ちが悪いときは、しっかりとエサ付けするか、やや

大きくエサ付けします。それでも持たないときは使っているエサを押し練りをして対応します。

ある程度ウキが動くようになつてカラツンが多発する場合は、タナでエサが開きすぎているのでエサ付けをひと回り小さくする、もしくは下ハリスの長さを詰めて対応します。ハリスの長さ調整は、短いハリスを使うヒゲトロセット釣りでは、1〜2cm単位という細かい調整になります。

チョーチンのバラケエサは、浅ダナのとさくくらべてタナに寄せる必要性があるので、やや開きのあるタッチがいい傾向です。またバラケエサで釣れてもOKで、むしろある程度上バリで釣れてくるときはよい状態であるといえるでしょう。



ヒゲトロセットのチョーチン釣り 釣り方のコツ

●くわせエサ

「極上とろろハード」

●使い方

1分封の3分の1程度を取りだし、ほぐすようにしてから軽く吸水させる。ハリに2~3回引っかけるようにして、2~4cmぐらいの長さに扱い使用する。



実寸大



3cmぐらいの長さが標準

■セッティング

竿●8~21尺
ミチイト●1.0号

ウキ●
ボディ8~18cm
パイプトップ
PCムクトップ

ハリス●上0.5~0.6号 10~15cm
下0.4~0.5号 20~30cm

ハリ●上7~9号、下5~6号

●オモリ 実寸大

「絡み止めスイッチシンカー」
0・8g

+

0.25mm厚板オモリ
17mm×27mm

短竿

「絡み止めスイッチシンカー」
2・0g

+

0.25mm厚板オモリ
17mm×33mm

長竿

●作り方

「粒戦」100 cc、「とろスイミー」50 cc、「サナギパワー」100 ccをエサボウルに入れて粉の状態で全体を軽くかき混ぜてから水200 ccを入れて吸水させる。5分ほど放置してから「セット専用バラケ」150 ccと「BBフラッシュ」150 ccを入れ、手を熊手状にして20回程度かき混ぜて全体が均一なるよう混ぜる。エアーを含んだボソに仕上げる。

●使い方

基エサを3分の1程度に小分けして、数回手水を打って使用する。トップ先端付近までなじまない場合は、しっかり圧を掛けてエサ付けする。それでも持たない場合は押し練りをする。

●ブレンドのアレンジ!!

エサが持ちすぎる、ウキの動きが少ないときは、ブレンドをまとめる役目の「BBフラッシュ」を「セットアップ」に変更してみよう。

**「粒戦」100 cc+「とろスイミー」50 cc+
「サナギパワー」100 cc+水200 cc+
「セット専用バラケ」150 cc+「セットアップ」150 cc**



ウドンセットのチョーチン釣り①

しっかりナジませて釣る基本パターン

●バラケブレンド

「粒戦」100 cc+

「とろスイミー」50 cc+

「サナギパワー」100 cc+

水200 cc+

「セット専用バラケ」150 cc+

「BB フラッシュ」150 cc



+



+



+



+



+



ウドンセットのチヨーチン釣りは、色々なアブローチがあり、いままや一年中有効な釣り方といえます。厳寒期であればバラケエサをほとんど持たせない方がいいときもありますが、ある程度活性がある時期はバラケエサをしっかり持たせて釣りを組み立てた方がいいでしょう。なぜなら活性がある時期は魚がバラケエサに反応するので、上層から開かせすぎるとタナに集魚することができないので安定してアタリをだすことができます。

ですから基本的にはウキのトップ先端付近（時には沈没するぐらい）まで必ずナジませるようにして、バラケエサが抜け

●エサの大きさ

実寸大



てウキがエサ落ち目盛まで戻ってくるまでのアタリを狙っていきます。もちろん、バラケエサが抜けてからもアタリはありますが、この場合、カラツンが多くなりやすいので、バラケエサが付いているときのアタリを狙うのがセオリーです。

エサ落ち目盛りですが、バラケエサをしっかり抱えるよう、トップ全体の4分の3を水面にだすように設定します（たとえば全11目盛りのウキであれば7〜8目盛りだして設定）。

またトップの種類です



ウドンセットのチョーチン釣り①

釣り方のコツ

●くわせエサ

活性がある時期のへら鮎のあおりはかなり強くなります。そのためくわせエサのウドンも重め大きめが必要となります。ですので「魚信」がおすすです。ただ、その日の活性によってくわせエサを使い分ける必要もあるので「力玉ハードⅡ」、「感嘆」、「感嘆Ⅱ」も用意しておきましょう。



が、パイプトップ及びムクトップどちらでも使いやすいものでよいと思いますが、パイプトップの方がエサを抱えることが

できるので、基本はパイプトップのウキが使いやすいでしょう。チョーチン釣りの場合はロッド操作が可能なの

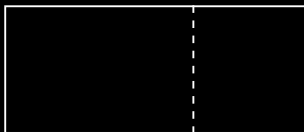
で、エサをしつかり付けすぎてウキが沈没したら立て誘いをしてトップ先端がでるようにしてください。

また、エサを打ち始めて魚が寄ってくると、エサ持ちが悪くなりウキをナジませにくくなりますが、そのようなときでもトップ先端付近までナジませるようにしっかりエサ付けをします。それでもナジまない場合は、押し練りをして対応します。

この釣り方にカラツンは付き物です。ある程度はカラツンをだしながら釣りを組み立てますが、どうしてもヒット率が悪いときはバラケエサをひと回り小さくエサ付けするか、下ハリスを詰める、もしくは下バリを大きくして対応します。

●オモリ 実寸大

0.25mm厚板オモリ 17mm × 25mm ~ 17mm × 40mm



■仕掛け図

竿 ● 7 ~ 10尺

ミチイト ● 1 ~ 1.2号

ウキ ● ボディー 8 ~ 12cm
パイプトップ

ハリス ●

上 0.5 ~ 0.6号 8 ~ 10cm

下 0.4 ~ 0.6号 25 ~ 50cm

ハリ ● 上 8 ~ 9号、下 3 ~ 6号

●作り方

「バラケマッハ」800cc、「BBフラッシュ」200ccをエサボウルに入れて粉の状態ですべてをよくかき混ぜてから水200ccを入れてかき混ぜる。エサの量が多くなるので、ゆっくりと丁寧にダマができないように注意します。

●使い方

使用するときには基エサを半分に小分けします。エサのサイズが大きいため、指先で丸めるよりも握って形成する方がまとまりやすくなります。注意する点はギュと強く握ってしまい、ウキが勢いよくナジミ込むのではなく、ジワジワとゆっくりとナジむくらいの圧の掛け方が理想です。もし沈没したときは竿先を持ちあげてバラケを促進させます。

●エサの大きさ

実寸大



●くわせエサ

「カ玉ハードⅢビッグ」

食わせエサは「カ玉ハードⅢビッグ」。ハリ持ちに優れ、活性が高いときでも、大きさと重さでハリスがしっかりと張り、明確なアタリがでます。へら鮎のあおりに負けず、そしてその大きさにより大型へらにもアピールできるくわせエサです。



ウドンセットのチョーチン釣り②

大きなバラケエサとくわせエサで釣る強い釣り

●バラケブレンド

「バラケマッハ」800 cc＋
「BB フラッシュ」200 cc＋
水200 cc



+

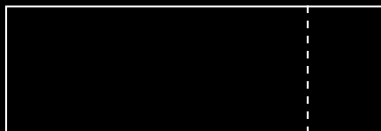


+



●オモリ 実寸大

0.25 mm厚板オモリ 17 mm × 40 mm ~ 17 mm × 50 mm



■仕掛け図

竿● 8 ~ 10 尺

ミチイト● 1.2 ~ 1.5 号

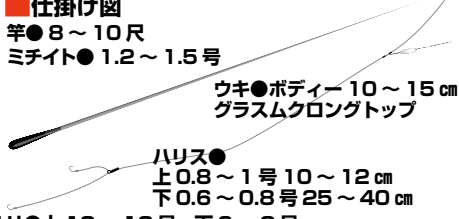
ウキ● ボディー 10 ~ 15 cm
グラスムクロングトップ

ハリス●

上 0.8 ~ 1 号 10 ~ 12 cm

下 0.6 ~ 0.8 号 25 ~ 40 cm

ハリ● 上 10 ~ 12 号、下 6 ~ 8 号



膨らむからアタる！空振らない！

石井忠相

上で騒がず、
タナで安定してアタリがでる

萩野孝之



麩+グルテンの「膨らみ系ダンゴエサ」

グルテンダango

[ジューター]